

西洋経済史 A (京都大学経済学部 2004 年度 (平成 16 年度) 前期)

第 2 講 農業革命 040416

演習問題「第二次囲い込みを第一次囲い込みと対比させて論ぜよ」

『経済史入門』 2 章・4 章 2B・6 章

● 「Population=人口」か？再論

Collins

Population

- 1) all the persons inhabiting a country, city, or other specified place
- 2) the number of such inhabitants

Thesaurus

Citizenry, denizens, folk, inhabitants, native, populace, residents, society

OED

- 1) A peopled or inhabited place. 1578, 1613
- 2) The degree in which a place is populated or inhabited; hence, the total number of persons inhabiting a country, town, or other area 1612-1798-1803 18・19 世紀に急増

「**革命」という用語の一般的な運命

まず、「農業革命」、ドラスティックな変化が強調される。

後に、そうした「断続説」に反対する「連続説」があらわれる。

さらに、細かく実証研究が進むが概念的な意味合いは薄れる。

18 世紀の農業改良家—ジェスロ・タル、アーサー・ヤング、クック、ベイクウェル

→18 世紀後半のノーフォーク農法の普及→地代の 9 倍化(G. E. Mingay, *The Agrarian Revolution*, London, 1977)

↓

1550-1750, 1650-1750, 1750-1880 という連続的なプロセス

【1】開放耕地制度

[1]三圃農法と開放耕地制度

図) 三圃農法 (『経済史入門』 27 頁)

三年に一度耕地を休ませる。

連作—地力が衰え、収穫逡減→休耕の必要

二圃制より耕地効率が低い

三圃農法—地域によりばらつきはあるが中部諸州では12世紀までに支配的となる。

図) 開放耕地制度の模型 (『経済史入門』 26 頁)

①家屋・宅地②開放耕地または共同耕地③共同牧草地④共同放牧地⑤共同荒地

ゲルマンすき—有輪すき (8頭の役畜でひく)

「各農家の保有するそれぞれの耕地は耕地・耕区に分散」『入門』 28 頁

「保有者をこととする帯地間に垣がなかったので、それは一般に開放耕地とよばれている」
『入門』 28 頁

「各人の帯地が三つの耕地に平等に配分されているために、各農地の農業経営は完全に三圃農法に従わなければならなかった」『入門』 28 頁

「これらの耕地は作付期間中は各農家が自立して耕作したが、収穫後から播種までの、そして休閑中の耕地には放牧入会権が支配して、各農家は保有耕地面積に比例して自分の家畜を放牧することができた」『入門』 29 頁→村落共同体規制

領主・農奴関係

「剰余労働の収取者である領主は名目上の土地所有者であるのに対して、直接生産者である農民が、その同じ土地に対する事実上の土地所有者である。前者をいわゆる「上級所有権」の所有者、後者を「下級所有権」の所有者、または「土地保有者」とよぶ。…ひとつの不動産について上級・下級のいく重ものゲヴェーレが長城しうる」松田編『西洋経済史』 41 頁

「直接生産者である中世の農民は、労働諸条件から分離された近代の自由な賃労働者、あるいは、生産用具の一部とされた古代の奴隷と異なって、労働諸条件の、とくに土地と不可分に結合していて、その限りでは、自己の労働力を商品として売る必要もなければ、自己の全労働生産物に対する一応の取得者でもありえた。したがって、名目上の土地所有者である領主が、このような直接生産者である農民から全剰余労働を封建地代として収取するためには、先に述べた近代的土地所有者のように、商品生産の法則、すなわち経済的強制ではなく、封建地代の発展段階に応じてさまざまな形態をとるのであるが、経済外的な直接

の強制力を必要とした」松田編『西洋経済史』41頁

封建地代の三形態

①労働地代②生産物地代③貨幣地代

14・15世紀のイングランド①②→③へ（「エーカーあたり一定貨幣額に地代を固定し、それを支払うことをさせている」『入門』70頁

[2]封建的危機と農民一揆

14・15世紀における全ヨーロッパにおける封建的危機—農業生産の縮小・耕地の放棄・地代水準の低下による封建領主の収入減少

- ・政治的・社会的要因—ペストと戦乱（百年戦争・薔薇戦争）
- ・経済的要因—荘園制 manorial system の崩壊による領主収入の減少・地代水準の低下
13世紀：「領主財政の貨幣需要の増大からする賦役の金納化が進行」松田編『西洋経済史』76頁

14・15世紀：「農民内部における貨幣経済の発展＝農民的貨幣経済にもとづいて、農民自身の要求として封建地代の貨幣地代への転換が図られることになる」←農村における生産力の発展：松田編『西洋経済史』76頁

「他方、貨幣地代への転換は、それまでの労働地代＝賦役と異なって、貨幣価値が継続的に減少したため、農民の実質負担を著しく軽減し、逆に領主収入を減少させた」松田編『西洋経済史』76頁

農民一揆

1358年 ジャックリーの乱（フランス）

佐藤賢一『赤目のジャック』

1381年 ワット・タイラーの乱（イギリス）→「地代の金納化」

1524年 農民戦争（ドイツ）

危機打開の方向性

ドイツ—「再版農奴制」（農場領主制）

フランス—寄生地主制

イギリス—封建領主の近代的地主への転化

【2】第一次囲い込み（15世紀後半～17世紀前半）

[1]農民的囲い込み

「数枚の帯地を交換分合とか買い取りによって一枚の耕地に統合して、それを生け垣とか石垣で囲った」『入門』73頁

－開放耕地制度と村落共同体を破壊・領主の土地保有を廃棄するものではなかった（『入門』75頁）

[2]領主的囲い込み

牧羊需要の増加

開放耕地制度－夏期：入会地で放牧、冬期：舎飼→大規模牧羊業は不可能

「領主は、直営地を構成する帯地を1カ所に集めるばかりでなく、農民が上土権をもつ隸農地、農民が入会権をもつ入会地を収奪して、それらを囲い込んで牧羊地にした」『入門』74頁

トーマス・モア『ユートピア UTOPIA』（1516年）「羊が人を食う」

「絶対王政の反対をおしきって強行」『入門』122頁

「領主的囲い込みは、開放耕地制度を破壊したばかりではなく、さらに領主みずから領主的土地保有を破壊してそれを今日の地主的土地保有いわば「近代化」した」「領主の底土権は（農民の）上土権を吸収して、領主はその土地を自由に処分して利用できることになる」『入門』76頁

【イギリス革命】

【3】第二次囲い込みと農業革命

[1]「農業革命」1750-1850

① 開放耕地の囲い込み

② 新農業技術・機械の適用

● なぜこの時期に農業革命が起こったのか？

- ・ 人口増加による農産物への需要増大
- ・ ナポレオン戦争(the French Wars(1793-1815))による農産物価格上昇

ノーフォーク農法'The Norfolk Four Course'

Viscount Townshend(1674-1738)

図) ノーフォーク型輪作農法の一例『入門』120頁

作物としてはカブ(根菜)が加わる。

「開放耕地制度の牧草地が必要でなくなって耕地に編入されて、耕地の割合が増加」『入門』120頁

「ノーフォーク型輪作農法は広々とした大農場でだけ採用できる近代的農法であり、この農法を採用するためにはこうした大農場が創造されなければならなかった」『入門』122頁

「三角測量に基づく正確な測量が実用化され、中世の封建社会の村落共同体に固有の複雑な土地に対する諸権利を査定して()農地の再配分を行い、その過程で小土地所有の大土地所有に対する劣位が明らかになり、富裕化する農民も、没落する農民もともに、土地を地主に売却し、これを受けた地主は土地改良を加えた大農場に改造し、農業資本家に貸与し、大農業経営の優位から生じる超過利潤を地代としてうけとることが可能となり」松田編『西洋経済史』40頁(鶴川馨)

↓

[2]第二次囲い込み(「議会囲い込み(Parliamentary Enclosure)」)

[3]第二次囲い込みの社会経済的影響

- ・大地主: 明白な利益
- ・小地主(the small landowners)と(tenants)ー論争点
ハモンド説(Hammonds)ー没落し、都市に移住

三分制度(近代的地主・農業資本家・農業労働者: 三つの基本階級)の成立ー近代的土地所有

the tripartite division into landlord, capitalist farmer and landless labourer

「小作農による資本主義的大農経営」『入門』125頁

「上昇した富農層は、自己の所有にかかる農地を売却し、土地代金として受領した資金を経営資本として、種子、家畜、農業機械を購入し、地主より大規模な農場を借り入れ、農地を失って没落したかつての同輩を農業労働者として雇用し、農業生産を行わせたのである」松田編『西洋経済史』39頁

所有と経営の分離

「資本家的小作農は地主から競争地代で期間を決めて農場を借り、道具・種・肥料などとともに農業労働者を調達して、この農場を経営している」『入門』124頁→地代と農業利潤の分離

用語

the open field system 開放耕地制度

three field system 三圃農法

common right 入会権

the Lord of the Manor, Squire

the freeholders 自由保有農

copyholder 登録保有農、土地保有をマナー裁判所に登記した農民『入門』71頁

the tenants

講義の参考にした文献

堀江英一『経済史入門』2章・4章2B・6章

松田智雄編『西洋経済史』5 封建的土地所有、6 古典荘園制、8 純粹荘園制、11

封建的危機、12 農民一揆、15 困い込み運動、24 農業革命

角山栄編『講座西洋経済史 I 工業化の始動』第1部4 農業の発達

David Taylor, *Mastering Economic and Social History* (Macmillan, 1988). 2 The Agrarian Revolution 1750-1850.

Robert C. Allen, *Agrarian during the industrial revolution, 1700-1850*, in Floud and Johnson(ed), *The Cambridge Economic History of Modern Britain, Volume I, Industrialisation, 1700-1860* (Cambridge University Press, 2004)

角山栄編著『新版西洋経済史』(学文社、1980年) 4章II

椎名重明『イギリス産業革命期の農業構造』(御茶の水書房、1962年)

小松芳喬『イギリス農業革命の研究』(岩波書店、1961年)

飯沼二郎『農業革命論』(未来社、1967年)

楠井敏明『イギリス農業革命史論』(弘文堂、1968年)

次回：第3講 産業革命

大塚久雄『欧州経済史』1章

堀江英一『経済史入門』7章1

演習問題「イギリス産業革命の開始期と終結期を示す具体的指標をあげて、それぞれその根拠を述べよ」(松田智雄編『西洋経済史』188頁(井上巽))